



さろん代表を拝命して

はじめに

本年4月1日から堀越前代表の後任として、さろんの代表に就任いたしました。2010年のさろん発足から8年を数え、メールニュースの登録数450件、Facebookの友人数では540人にまでひろがりを見せています。こうした取組みが本業と別にあるというのは人生の喜びのひとつですが、同時に、この実践の舵取りを担うのはそれなりの重責でもあります。この点、フレッシュな楠本副代表や経験豊富なスタッフに囲まれていますので、その助けを全面的に借りながら職務を全うする所存です。

会には代表・副代表以外に、会計、広報、監事の会務があり、これを各スタッフが担当しています。また、新体制にとって幸運なことに、NPO法人アーダコーダ理事でもある前代表・堀越に渉外役に就任してもらいました。常に変化の中にある市民による哲学カフェの界隈にあって、大局的な見地から助言をいただけるものと思います。

さろんのこれまで

第1回のさろん哲学を開催した2010年9月、月に一度の哲学カフェだけが会の取組みのすべてでした。それがどんな風に変化してきたのか。この一端について、昨年実績でご紹介します。

2017年は通常プログラムとして、さろん哲学（哲学カフェ）11回、朝さろん（読書会）12回、スナック夜さろん1回、さろん・序（哲学本講読＋対話）1回、ゆるカフェ11回、自由勉強会（ゆるカフェ枠）1回、あるぱか学校（アートーク！）1回、が実施されました。それから特別企画として、「記念例会」、「クリパ」、「さろん仙台ツアー（1泊2日）」、「哲学プラクティス連絡会／ブース出展」が各1回ありました。これらレギュラーとスペシャルを合算した実施プログラム総数全42回。これを企画・運営するためのスタッフMTGが毎月1回で計12回。告知広報としてメールニュースの発行が25回。総計79回。およそ4.6日に1回のペースで、なんらかのさろんのアクションが実行されている計算になります。

スタッフ各人の純粋な「楽しみ」、興味・関心のもとで実施されている以上、数の多寡はさして問題になろうとは思えません。一方で、参加者（や読者）ありきの実践であることを考慮すれば、安全性、満足度、可変性、コストや頻度、まなびの達成度…といった観点から検証する余地もあるようにおもいます。8年に渡るこうしたプラクティスの積み重ねによって醸成されている「さろん」というプレゼンスやコミュニティ性が、穏健かつ持続可能なものであるために、できるだけのことをしていきたいと思えます。

順調にいけば本年12月にさろん哲学は第100回の大台を迎えます。回を重ねるということは場を設けるということです。場を設けるということは人をつなぐことです。人は人をつながることで、自分ひとりでは学べない多様なまなびに出会うことができます。それが悦びであり、楽しみになり、次の一回に向けての活力となってきたのがさろんの原点です。これからも原点を忘れない一貫性のある姿勢を大事にしていきたいと思えます。

これからのさろん

2013年に代々木のオリンピックセンターで「さろん3周年文化祭」を開催しました。“Playful Learning Commons”というテーマのもと、2日間に渡って朝から晩まで、全13本のプログラムと4本の展示を行いました。これまた順調に行けば、2020年にさろんは10周年を迎えます。この一里塚に向かって、今までにない（でもさろんらしい）仕方で、さろんのこれまでの歩みを発展的に検討する機会を持ちたいと考えています。そのためにも、8年のあいだで日常化・卑近化している「哲学カフェ（哲学対話）」を幾たびも問い直す姿勢は不可欠です。哲学プラクティショナーらしく、何度でも前提に立ち返り、異化し、協働実践者のあいだでオープンに対話していきます。この取組みを通して自分自身の見識を見つめ直す。こういう謙虚なまなびの態度はこれからますます欠かせないでしょう。換言すればこういう実践的な態度こそ、哲学カフェのアルファでありオメガに近いものなのかもしれません。

いま、アクティブ・ラーニングや知識のライフサイクル、生涯学習やライフ・シフトという考え方が持て囃されています。さろんのスタッフひとりひとりにとっても、2020年までをひとつの“ギャップ・イヤー（※人生の「寄り道」。あるいは「すき間」の日々を使って旅をするくらいの意味）”あるいは“リ・カレント”のステージと捉えながら、グッド・プラクティスを積み重ねていければと思います。そうして次のディケイドに向けて確かな根をおろしていきたいと願っています。みなさんと一緒にその木陰に集えるような一本の樹の根を。

こうした活動継続のために諸経費の発生は避けられません。サーバー代やドメイン代のランニングコスト、会名義での口座や入出金の管理、事業計画や予算等の事務的書類の作成とクラウド管理、ローカル環境下での個人情報管理などの事務作業は表には出にくいですが、安心安全のためには必要不可欠なものです。参加者のみなさんから少しずつ頂戴している運営費は、こうした屋台骨の維持のために大切に運用させて頂いています。次期ではこれまでよりも見えるカタチでみなさんに還元できるよう、イベント毎に弾力的な予算執行を行ったり、より催事内容に適した開催会場（環境）を柔軟に選択できるようにしたり、さろんオリジナルグッズの提供などもにらみながら、スタッフみんなが試行錯誤しているところです。

おわりに

そうは言っても、スタッフが卒業したり休会したりもしている現状では、言うは易く行うは難しいものがあります。哲学カフェがブームだった頃ならともかく、これだけ一般化した現状で、市民が実施している数多の哲学カフェのワンオブゼムである本会がリピーターと新規参加者を安定して迎え続けるために一層のプレゼンスを発揮し続けていかなければなりません。“さろんらしさ”という魅力を。

2010年の発足から今年までの8年、円卓を囲むメンバーのひとりとしてさろんスタッフの末席に加わり、堀越前代表、野田元代表、志村・大村の両元副代表のもとで会務を目の当たりにしてきました。この間、歴代の代表が決して易くはない責務と重圧の下で献身的なハードワークをこなしている姿を身近で拝見してきました。わが身を振り返り、同様の会務をこなせるかどうか不安でもありますが、幸いにしてスタッフ

在籍キャリアだけは負けていません。精鋭揃いの現スタッフと、いつも刺激的な参加者のみなさんのサポートを全面的に得ながら、また他の団体や識者とも積極的に交わりながら、本会・さろんの発展に微力ながら寄与すべく職責を果たしていきたいと考えています。とりま、肩肘張らずに、メッチャ楽しみながら。

代表の芹沢と言います。何卒よろしくお願い申し上げます。

『むずかしいことをやさしく、やさしいことふかく、ふかいことをゆかいに、ゆかいなことをまじめに』(井上ひさし)

2018年4月1日
芹沢幸雄

副代表就任あいさつ

本年4月1日よりさろんの副代表に就任致しました、楠本と申します。

さろんに偶然足を運ぶようになる前、私は「対話」について考えを巡らしたことは殆どありませんでした。

家族との会話、友人達との他愛ない会話。それらの中にも対話の要素はあったのかもしれませんが、相手の意見を尊重することよりも、言いたい事を言って盛り上がる事を重視するような会話が殆どだったと記憶しています。

だからこそ初めて参加したさろんの例会での2時間が私にはとてもキラキラ輝いて見えました。

こんな風に節度を保ちながら、それでいて考えたこと・感じたことを自由闊達に言い合える場が存在するのかと、ただただ驚きました。

芹沢新代表や例会司会を担当する堀越・野田の両名に比べればむしろ表に出てくる機会は多くないかもしれませんが、哲学カフェという場で自分にできることを考え・実践を試みることを怠らず、皆様と共にさろんを盛り上げていければこれに勝る喜びはありません。

宜しくお願い致します。

2018年4月1日
楠本 航